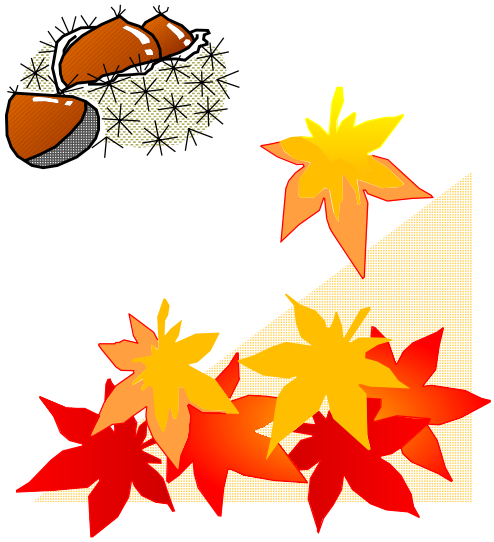
2000. 11. 1

循環器・呼吸器病センター だより

第１０号



秋も深まり、冬めいて参りました今日この頃、先生方におかれましては、益々御健勝のこととお喜び申しあげます。

さて、当センターにおきましては、九月二十日に比企医師会の先生方と、医療連携に関する協議会を開催したところ、多くの先生方に御出席していただき、また、貴重な御意見を頂き心より感謝申し上げます。今後、同様の協議会を他の地区の先生方とも開催し、当センターの運営に生かしていきたいと思っておりますので、御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

総　長　竹内　成之

≫≪≫≪≫≪≫≪≫≪≫≪≫≪≫≪≫≪≫≪≫≪≫≪≫≪≫≪≫≪≫≪≫≪

インフルエンザの季節を迎えて

副病院長(呼吸器内科)　金沢　実

毎年木枯らしが吹くと、また、インフルエンザの季節が来たなと思います。先生方もワクチン接種を患者さんに勧めておられることと思います。インフルエンザワクチンというと、これまでは学童が主な対象とされてきましたが、近年ようやく高齢者や基礎疾患をもつ患者へ接種することの大切さが認識されるようになりました。

インフルエンザの流行は、肺炎、急性気管支炎などの急性呼吸器疾患に限らず、慢性呼吸器疾患、虚血性心疾患、脳血管障害など様々な疾患で超過死亡をももたらすとされます。これらの疾患はいずれも当センターの対象疾患ですので、われわれもワクチン接種などの対策に真剣に取り組んでおります。我が国の最近の調査によりますと、これらの肺・心・脳疾患の他、糖尿病、腎疾患、肝疾患、悪性腫瘍などでも超過死亡が認められており、インフルエンザ流行の影響は多疾患・広範囲に及ぶことがわかります。

インフルエンザについては、Flu　A などの迅速診断法とアマンタジンなどの抗ウイルス薬の導入が、診療に大きな変化をもたらしています。特に発熱後 48 時間以内であれば、その意義が大きいため、患者さんにも熱が出たら早く受診するよう勧めています。早期診断と早期治療は、肺炎などの合併を予防し、重症化を防ぐことにつながります。

それにしても、高齢者や基礎疾患を有する患者が高熱を発しますと、脱水なども加わって、それだけで原病が重症化することが少なくありません。特に慢性肺疾患患者では、インフルエンザだけで、呼吸不全の急性増悪を引き起こし、人工呼吸を要することもしばしばみられます。また、二次的な細菌性肺炎はハイリスク者に限らず若い人にもときに合併がみられますので注意が必要です。さらに ARDS(急性呼吸促迫症候群)、心筋炎、急性細気管支炎、侵襲性アスペルギルス症などめずらしい合併症も経験しています。

インフルエンザ流行期間中はどの病院もベッドが満床となり、救急患者の受け入れが困難になりがちです。当センターは病院の性格上、ある程度の病床の余裕を持った運営に努めております。できる限り先生方にご迷惑をお掛けしないように、最大限の努力を払って受け入れを進めてまいりたいと考えておりますので、この冬も宜しくお願い申し上げます。